

はしがき

世界はいま、新型コロナウイルス感染症の猛威にさらされ、社会経済状況の混乱が収まらない。これは単に医学的・疫学的に感染症による影響が、われわれの生命や身体に害をもたらしているわけで無く、人間にとって最も重要なあらゆるヒト・モノ・コトとの関係性を分断させ、つまり個別の生活そのものに入り込み、それまでの生活を本質的なところで分断させ、崩壊するところまで追い込んでいるのである。

また、この感染症は、これだけ医療、医学が進歩しているのに関わらず、依然として感染者数の増加をもたらし、その様相は一進一退の日々が続いており、医療従事者をはじめとするエッセンシャルワーカーに多大な負担をかけ続けている。何が一体感染者を増やしているのか、どうしたら感染者数を減らせることができるのか。もちろんワクチン接種や治療薬の開発と普及で中長期的な解決はもたらされるが、個々人の感染予防の徹底による対策が最も重要であることは間違いの無い事実である。結局のところ一人一人の行動変容で社会は変わる、感染者を減少させることは可能になるのである。大げさに言うと、一人一人の行動によって社会を救うことができるし、変えることができる。われわれはそのあたりを見据えて行動しなければならないが、世界的な感染症の問題をわれわれ自身の日常に落とし込むことの難しさ、自分事として社会の課題を考えることが簡単な話ではないこともわかっている。ただ、新型コロナウイルス感染症の拡大以前から、世界の社会経済状況は不確実で先の見通せない状況が存在し、労働問題・雇用問題は歴史的な課題にくわえ、さまざまな分断によってもたらされた新たな課題とも直面しなければならない時代となっている。一体これらの労働問題・雇用問題も、われわれ自身がどれだけ自分事として考えることが出来ているのであろうか。

本研究班の研究目的は、大阪・関西地方の社会経済問題、とりわけ労働問題・都市化に関わる問題・環境問題・社会政策や社会保障にかかわる諸問題の歴史

と現状を、21世紀の現代的課題を展望しつつ考察することを目的とした研究班である。先述したようにこれらの諸問題は、国境を越えグローバルな問題として再定義されることで、その解決方法や手段は、それまでの既存の価値や解決手法ではとらえることが出来ないものとして再定義されなければならない。とりわけ社会保障の問題は、すでに制度疲労を起こしており、次々に生ずる新たな諸問題に対応できない。国際問題、カーボンニュートラルやグリーンエネルギー、SDGsが課題とする問題は、これまでも議論され続けている問題であるが、あらためて現在の世界の状況から再定義され、かつバックキャストिंगから見据えた解決方法が見いだされなければならないといえる。

これらの問題に、1つの「こたえ」を求めただけでは、現実の複雑でダイナミックに変容していくグローバルな世界を理解することはできない。すべての社会に適用可能でシンプルな解決策はあり得ない時代になっているのである。複雑な状況を複雑なままで捉えつつ、複数の「解」を導き出すなかで、それぞれの社会に適した方策を見いだしていくことが欠かせないといえる。

本双書は、関西・大阪における社会経済問題に関する基礎的資料の整理と分析、およびそれに関連する政治・法制・経済の動向、京阪神と東アジア諸国との政治的・経済的関係を学際的・多角的な視点から分析することにより、大阪における社会経済問題の現状とそれへの対応策を提示した論集である。このコロナ禍でグローバルな課題をそれぞれの研究員が踏まえつつ、関西大学が位置する大阪の地域社会に展望を示す役割を果たすことをミッションとした研究成果の賜である。研究班の研究員の先生方の労をねぎらいつつ、本書を手にするみなさまからは、本研究班の研究成果につきまして忌憚の無いご意見をいただけることを願っております。

ロシアによるウクライナ侵攻を憂いつつ

2022年3月

関西・大阪の社会経済問題の歴史と現状研究班 主幹 岡田 忠克